

第3学年 図画工作科学習指導案

3年2組 22名

授業者 久保 亮太

授業場 体育館

1 題材名 クミクミックス

「造形遊び A表現（1）ア、B鑑賞（1）ア、〔共通事項〕（1）ア、（1）イ」

2 題材設定の理由

本題材は、段ボールカッターを使って段ボールに切り込みを入れ、切れ込みと切れ込みを組み合わせて行為にひたる中で、造形的な活動を思い付いたり、工夫してつくりたりする学習である。段ボールは、紙を積層して作られているため丈夫であり、軽量で扱いやすい。段ボールカッターを使うことで、厚みのある段ボールであっても簡単に切ることができる。また、段ボールの特性と組み合わせによる立体構造から、比較的容易に大きな形をつくることができる。さらに、活動中に何度もつくりかえることが可能なため、豊かに発想・構想することができる。段ボールを組み合わせて大きな形にしようとする際には仲間との協力が必要となる場面も多く、友達と協力しながら新しい形をつくりだす力を育むことができる題材である。

本学級の児童は、図画工作科の学習に意欲的に取り組んでいる。本年7月に実施したアンケートでは、22人中20人が『図工が好き』（「好き」14人、「どちらかといえば好き」6人）と回答し、図画工作科の時間を楽しみにしている児童が多いことがよくわかる。授業の中では、自分のつくりたいものや思い描いたイメージに向かって進んで活動したり、自分のこだわりやがんばったところを友達同士で伝え合ったりする姿がよく見られる。この時期の児童は、友達とともに活動することを好み、交流し合いながら活動を思い付き、活動そのものに夢中になる姿が見られる。造形遊びの題材である「つないで つるして」の学習では、切った新聞紙を次々とつないだりつるしたりする行為に没頭し、時間いっぱい楽しそうに活動していた。その中で、いろいろなつなぎ方やつるし方を試す楽しさに気付いたり、友達と協力することに喜びを感じたりする児童の姿がたくさん見られた。このような児童の姿から、さらに自分の表現したいもののイメージをもち、それに向かって試行錯誤し続けるような児童を育てたいと考えた。そこで、友達と協働する中で様々な表現に触れたり、繰り返し形を変えたりすることで、造形的な資質・能力をさらに高めることができるように、本題材を設定した。

指導にあたっては、まず、児童が思い付いたことをどんどん試せるように大きさや形の違う十分な量の段ボールを用意する。また、体全体を使って大きな形に組み合わせていくことができるよう、広いスペースが確保できる体育館を授業場とした。そして、材料となる段ボールを大きさごとに3か所に分けて配置することで、児童が段ボールを取りに行くときに友達の活動を目にする機会が増え、自然な鑑賞活動が期待できると考えた。題材の導入時には、切り込みを使った立体的な組み方を教師が演示することで、自分もやってみたいという意欲を高めたり、活動を思い付いたりできるようにする。活動中は、教師が児童の段ボールの組み合わせ方や組み合わせた形の面白さなどについて称賛することで、児童が自信をもって表現できるようにする。活動の手が止まっている児童には、友達の活動の様子を見るように促したり、教師と一緒に試したりするなどして、造形的な活動を思い付くことができるようになる。また、思い

通りにつくることができなかった場合であっても、その形を生かして何ができるかを考えたり、新しい形をつくったりするよう声をかけることで、次の活動に向かうことができるよう支援する。さらに、ICTを活用して、前時の活動の様子や段ボールを組み合わせてできていくつかの形を映し出しておくことで、造形的な活動を思い付くためのヒントとなるようにする。本時の振り返りの場面では、活動の中で考えたことやしようと思ったこと、工夫したことなどについて共有する時間を設け、自分や友達のがんばりを認め合うとともに、次時の学習への意欲を高められるようにする。

3 題材の目標

- (1)・段ボールの板を切ったり組み合わせたりするときの感覚や行為を通して、形の感じ、形の組み合わせによる感じなどが分かる。
・段ボールカッター、段ボールの板を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に動かせ、活動を工夫してつくる。 (知識及び技能)
- (2)・段ボールの板や組み合わせた形などを基に造形的な活動を思い付き、新しい形などを思い付きながら、どのように活動するかについて考える。
・段ボールの板を組み合わせてできた形の造形的なよさや面白さ、いろいろなつくり方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。
・形の感じ、形の組み合わせによる感じなどを基に、自分のイメージをもつ。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3)・進んで段ボールの板を組み合わせてつくる活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・段ボールの板を切ったり組み合わせたりするときの感覚や行為を通して、形の組み合わせによる感じなどが分かっている。・段ボールカッター、段ボールの板を適切に扱うとともに、前学年までの材料や用具についての経験を生かし、組み合わせたり、切ってつないだり、形を変えたりするなどして、手や体全体を十分に動かせ、活動を工夫してつくっている。	<ul style="list-style-type: none">・形の感じ、形の組み合わせによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、段ボールの板や組み合わせた形などを基に造形的な活動を思い付き、新しい形などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えている。・形の感じ、形の組み合わせによる感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、段ボールの板を組み合わせてできた形の造形的なよさや面白さ、いろいろなつくり方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	<ul style="list-style-type: none">・つくりだす喜びを味わい進んで段ボールの板を組み合わせてつくる学習活動に取り組もうとしている。

5 指導計画（3時間 本時2／3）

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> 切り込みによる立体構造のつくり方を知り、段ボールを組み合わせる活動への意欲を高める。 段ボールを組み合わせて様々な形をつくる。 	<p>知 ◎ 技 ◎</p>	<ul style="list-style-type: none"> 形の感じ、形の組み合わせによる感じなどに着目している様子を観察し、記録に残す。 手や体全体を十分に動かせ、活動を工夫してつくっている様子を観察し、記録に残す。 (観察、対話、撮影)
2 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 思い付いた活動を試し、自分のイメージに向かって形を変えたり、新しい形をつくりだしたりする。 	<p>思 ◎ (発想や構想)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージをもちながら、段ボールの板や組み合わせた形などを基に造形的な活動を思い付き、新しい形などを思い付きながら、どのように活動するかについて考えている様子を観察し記録に残す。 (観察、対話、作品、撮影)
3	<ul style="list-style-type: none"> 友達と互いの活動やできた形を紹介し合い、段ボールを組み合わせた形のよさや面白さなどについて考え、見方や感じ方を広げる。 	<p>思 ◎ (鑑賞) 態 ◎</p>	<ul style="list-style-type: none"> できた形の造形的なよさや面白さ、いろいろなつくり方などについて、感じ取ったり考えたりしている様子を観察し記録に残す。 (観察、対話、作品) つくりだす喜びを味わい進んで段ボールの板を組み合わせてつくる学習活動に取り組もうとしている様子を観察し、記録に残す。 (観察、対話、作品)

○題材の評価規準に照らして、適宜、児童の学習状況を把握し指導に生かす。

◎題材の評価規準に照らして、全員の学習状況を把握し記録に残す。

6 本時

(1) 目標

思い付いた活動を試しながら自分のイメージを膨らませ、発想や構想を活かして形を変えたり、新しい形をつくりだしたりすることができる。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意事項 ○評価【観点】(評価方法)
5分	1 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none">・前時の活動を振り返り、本時の活動のめあてをもつことができるようにする。 いろいろな組み合わせ方を試しながら、どんどん組み合わせよう。
35分	2 いろいろな組み合わせ方を試しながら考え、思い付いた活動をする。	<ul style="list-style-type: none">・組み合わせてできた形を、角度を変えて見たり離れて見たりするように伝え、発想や構想を深めていけるように助言する。・活動が停滞している児童には、その児童の思いを聞きながら、一緒に組み合わせ方を考えたり、友達の活動を紹介したりする。・材料となる段ボールを、大きさごとに3か所に分けて配置することで、児童が段ボールを取りに行くときに友達の活動を目にする機会が増えるようにする。・スクリーンに前時の活動の様子を映し出しておき、活動をするときのヒントとなるようにする。・児童が、自分の望むタイミングでタブレットを使って活動の写真を撮ったり、ヒント集を見たりすることができるようになる。・組み合わせ方や形の面白さなどについて称賛することで、児童が自信をもって表現できるようにする。 <p>○段ボールの板や組み合わせた形などを基に造形的な活動を思い付き、新しい形などを思い付けながら、どのように活動するかについて考えている。</p> <p style="text-align: center;">【思考・判断・表現】(観察、対話、作品、撮影)</p>
5分	3 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none">・活動して気付いたことや考えたことを伝え合う時間を設け、次時の学習への意欲を高めることができるようとする。

(3) 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	<ul style="list-style-type: none">・形の感じ、形の組み合わせによる感じなどを基に自分のイメージを膨らませ、いろいろな組み合わせ方を試しながらどのように活動するかについて考え、形を変えたり新しい形をつくりだしたりしている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	<ul style="list-style-type: none">・児童の思いを聞き取ったり児童とともにいろいろな組み合わせを試したりすることで、造形的な活動を思い付きやすくできるようにする。・友達の活動の様子を紹介したり、友達との協働を提案したりすることで、活動の手掛かりとなるようにする。・ICT を活用して、前時の活動の様子や段ボールを組み合わせてできたいくつかの形を映し出しておき、造形的な活動を思い付くためのヒントとなるようにする。